

公開実用 昭和63-192292

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-192292

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

B 65 D 83/08

識別記号

庁内整理番号

B-7405-3E

⑭ 公開 昭和63年(1988)12月12日

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 衛生ナプキンの連続取出構造

⑯ 実 願 昭62-83881

⑰ 出 願 昭62(1987)5月30日

⑱ 考 案 者 本 郷 清 東京都板橋区成増4-17-25 有限会社本郷内

⑲ 出 願 人 有 限 会 社 本 郷 東京都板橋区成増4-17-25

⑳ 代 理 人 弁 理 士 酒 井 一 外2名

## 明 細 書

1. 考案の名称 衛生ナプキンの連続取出構造

2. 実用新案登録請求の範囲

1) 一定間隔ごとにミシン目を介して連続的に衛生ナプキンを収納した容器本体と、該本体から前記衛生ナプキンを前記ミシン目ごとに切断して一枚ずつ取り出す取出構造を形成した容器本体に装着した蓋体とからなるものであって、前記衛生ナプキンの取出構造が、蓋体にクロスした切目であり、切目の端部又は端部付近に前記切目の引き裂き破壊を防止する防護手段を施したことを特徴とする衛生ナプキンの連続取出構造。

2) 防護手段が、各切目端部の周囲に設けた補強リブである実用新案登録請求の範囲第1項に記載の衛生ナプキンの連続取出構造。

3) 防護手段が、各切目端における裂目伸長防止用拡孔である実用新案登録請求の範囲第1項に記載の衛生ナプキンの連続取出構造。

3. 考案の詳細な説明

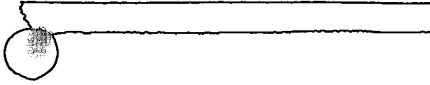
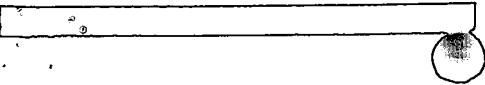
### ＜産業上の利用分野＞

本考案は衛生ナプキンの連続取出構造、特にナプキンの取出口における構造に関するものである。

### ＜従来技術＞

現在、使用されているぬれナプキンの連続取出構造は、第5図に示すようになっている。すなわち、容器本体101内には、第4図に示すように、一定間隔ごとにミシン目106を介してぬれナプキン102が連続して巻回した状態で収納されており、この収納したぬれナプキンは蓋体105から前記ミシン目106ごとに切れて一枚ずつ取り出されるようになっている。容器本体101と蓋体105とは、図に示すように蓋体を本体に押圧して、本体の突起部103と103'間の溝部104に、蓋体105の内側壁に設けたリング状突起（図示せず）を強制嵌入あるいは本体と蓋体が軟質プラスチック等の弾性作用によって離脱するか、別途螺着することによって本体と蓋体とを装着あるいは分離することもできる。

ここで、前記ぬれナプキンを容器本体101か



ら蓋体 105 より一枚ずつ取り出すには、初めに  
本体内に巻回したぬれナプキン 102 の内側の一  
端部を蓋体の中央部に設けたクロス状の切目 10  
6 から外部に突き出しておき、蓋体 105 を容器  
本体 101 に装着した後、前記突き出されたぬれ  
ナプキンの一端部を持って引き上げることに  
より、ぬれナプキン 102 は持ち上がり、一番最初のミ  
シン目 106 を通過した直後、引張力はミシン目  
106 を境として上方と下方にぬれナプキンを分  
離して一枚分のぬれナプキンを取り出すことが  
できる。この場合、二枚目のぬれナプキンはク  
ロス状の切目 106 から少し食み出して残ること  
になる。したがって、二枚目及び三枚目以降に  
上記したと同様の操作により、順次ぬれナプ  
キンを取り出すことができることとなる。

また、107 はぬれナプキン 106 の乾燥を  
防止するもので、クロス状の切目 106 の部  
分をシールするために、円筒状の突出部 108  
を被うや、はり円筒状の封入部 109 を設けた  
仮蓋であり、この仮蓋 107 は蓋体 105 と連  
結片 110 を介

して一体になっている。なお、111は突出部108を被っている封入部109を上方に持ち上げ易くしている指の差し入れ溝である。

＜考案が解決するための問題点＞

しかしながら、上記従来におけるクロスした切目106は、切目がクロスした付近では弾性材の蓋体がぬれナプキン102の持ち上げによってふくらみ、蓋体105とぬれナプキン102との間に大きな摩擦は生じないが、切目の端部では容器本体内部に広がってぬれナプキン102が急に狭くなって切目106に食い込むので摩擦が大きくなってクロスした切目106が引き裂き破壊が生じ、この破壊部によりぬれナプキンを途中で切断してしまうという不都合を招いた。

本発明は、上記欠点を解決するために、クロスした切目102の引き裂き破壊を防止して容器よりスムーズにぬれナプキンを引き出すことができるようにした衛生ナプキンの連続取出構造を提供せんとする。

＜問題点を解決するための手段＞

本発明は、上記目的を達成するためになされたもので、その要旨は一定間隔ごとにミシン目を介して連続的に衛生ナプキンを収納した容器本体と、該本体から前記衛生ナプキンを前記ミシン目ごとに切断して一枚ずつ取り出す取出構造を形成した容器本体に装着した蓋体とからなるものであって、前記衛生ナプキンの取出構造が、蓋体にクロスした切目であり、切目の端部又は端部付近に前記切目の引き裂き破壊を防止する防護手段を施こしたことを特徴とする衛生ナプキンの連続取出構造にある。ここで、衛生ナプキンには顔手を拭くための消毒用ナプキンから、家具や室内等の清掃用のナプキン及び広義のティッシュペーパーを含み、材質も紙製はもちろん不織布等にも含まれる。

また、切目の引き裂き破壊を防止する防護手段とには、各切目端部（各切目の延長線上を含む）に厚肉の補強リブを設けること、または各切目端部（各切目の延長線上を含む）に太孔を設けることが考えられる。

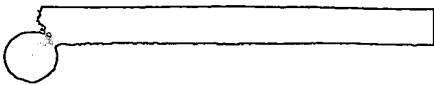
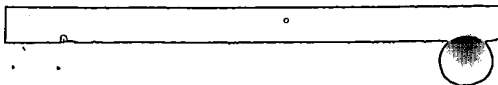
<作用>

本考案は蓋体にクロスした切目と該切目の端部又は端部付近に前記切目の引き裂き破壊を防止する防護手段を施すことにより、当初施こしたクロスした切目を保形して永い間の使用によっても、常に途中で切断することなく一枚ずつ衛生ナプキンを取り出すことができる。

＜実施例＞

本考案を添付図面に基づいて説明すると、第1図は本考案の一実施例であり、第2図は第1図のA-A断面図、第4図は切目を設けたナプキンの一部破断正面図、第3図は第1図とは別の実施例を示す蓋体だけの斜視図である。

図において、1は容器本体であり、この中には一定間隔ごとにミシン目106を介して連続的に巻回したぬれナプキン102が、内側から順に蓋体を経て順次外に出るようにしている。この容器本体1の上部には蓋体5を押圧によって嵌入するためのリング状突起部3、3'が二個有り、突起部3、3'間の溝4において、上方からの蓋体5の内側壁に設けたリング状突起2を容器本体1と



蓋体の弾性作用を利用して脱着可能に強制嵌入できるようにしている。

一方、蓋体 5 には中央部にクロス状の切目 6 を設け、この切目 6 の端部の周囲には切目 6 の端部の周囲に防護手段としての補正リブ 7 を設けている。またこの場合、第 1 図とは別に第 3 図に示すように切目 6 の端部に防護手段としての太孔 8 を設けてもよい。

また、蓋体 5 は仮蓋 9 が設けてあり、蓋体 5 と連結片 10 により一体に接合している。この仮蓋 9 にはぬれナプキン 102 の乾燥を防止するためにクロス状の切目 6 を設けた円筒状の突起部 11 を被うようにして、やはり円筒状の封入部 12 を設けている。なお、13 は突出部 11 を被っている封入部を設けた仮蓋 9 を指で持ち上げ易くした溝である。

上記構成からなる本考案の使用状態を説明すると、まず、容器本体 1 内に巻回したぬれナプキン 102 の内側の端部を内外からクロス状の切目 6 を介して外方に突き出しておいて蓋体 105 を容



掘本体 1 に嵌合する。ついで、突き出たぬれナプキン 102 の一端部を持って引き上げることによりぬれナプキン 102 は持ち上がり、一番最初のミシン目 106 を通過した直後に引張力はミシン目 106 を境として上方と下方にぬれナプキンを分離して一枚分のぬれナプキンを取り出すことができる。この場合、二枚目のぬれナプキンはクロス状の切目 6 から少し食み出して残ることになり、二枚目以降引き出す場合も、上記したと同様の操作により、ぬれナプキンを取り出すことができる。

＜考案の効果＞

以上述べたように、本考案によればクロスした切目の端部に切目の引き裂き破壊を防止する防護手段を施こしているのので、継続して使用しても切目が引き裂かれることがなく、衛生用ナプキンを当初から終りまで途中で切断することなく、一枚ずつ確実に引き出すことができる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図乃至第 4 図は本考案の実施例を示し、第 1 図は本考案である衛生ナプキンの連続取出構造

の一実施例を示す一部破断斜視図、第2図は第1図に衛生ナプキンをつけた縦断面図、第3図は第1図とは別の実施例である蓋体のみの衛生ナプキンの連続取出構造を示す斜視図、第4図は衛生ナプキンの一部破断面図、第5図は従来の衛生ナプキンの連続取出構造を示す斜視図である。

1・・・容器本体、5・・・蓋体、6・・・クロスした切目、7, 8・・・引き裂き防護手段。

実用新案登録出願人      有 限 会 社      本      郷

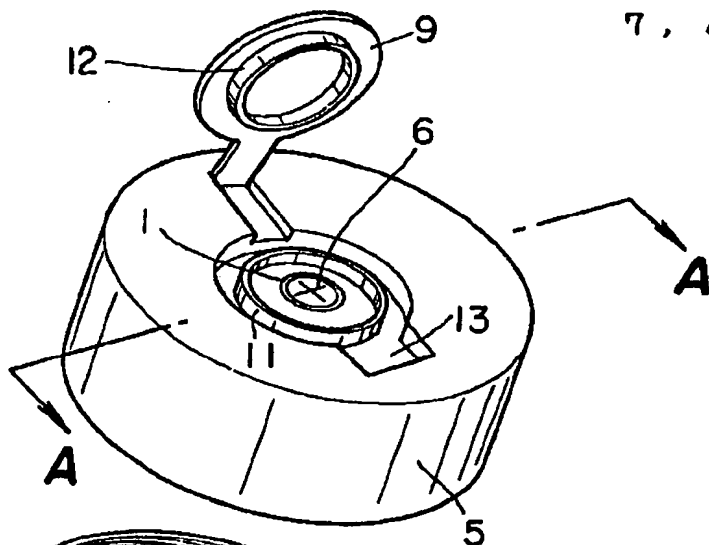
代理人弁理士              酒      井              一

同                          兼      坂              眞

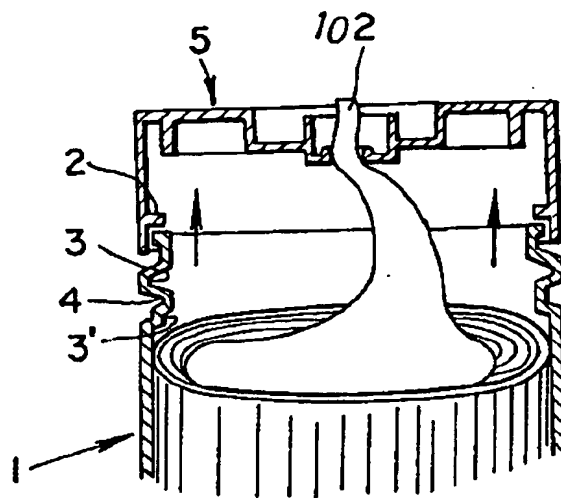
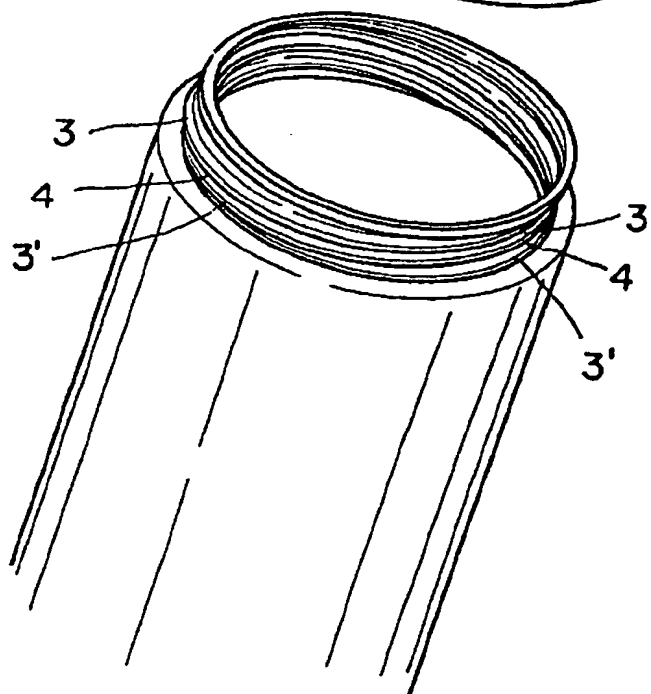
同                          兼      坂              繁

第 1 図

- 1・・・容器本体  
5・・・蓋 体  
6・・・クロスした切目  
7, 8・・・引き裂き防護手段



第 2 図

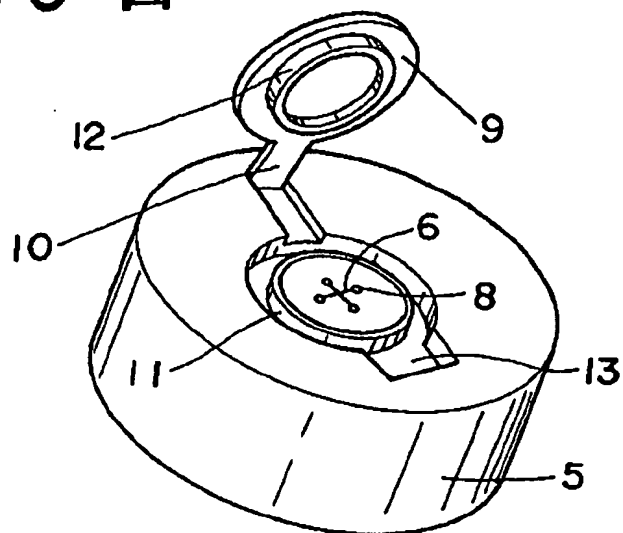


実用新案登録出願人 有限会社 本郷

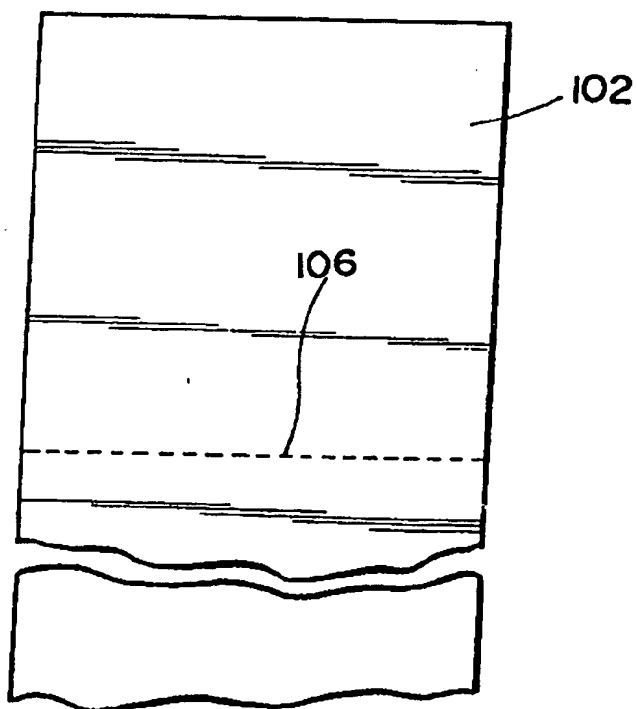
代理人 酒 井 一 ほか2名

実開 63-19229

第 3 図



第 4 図

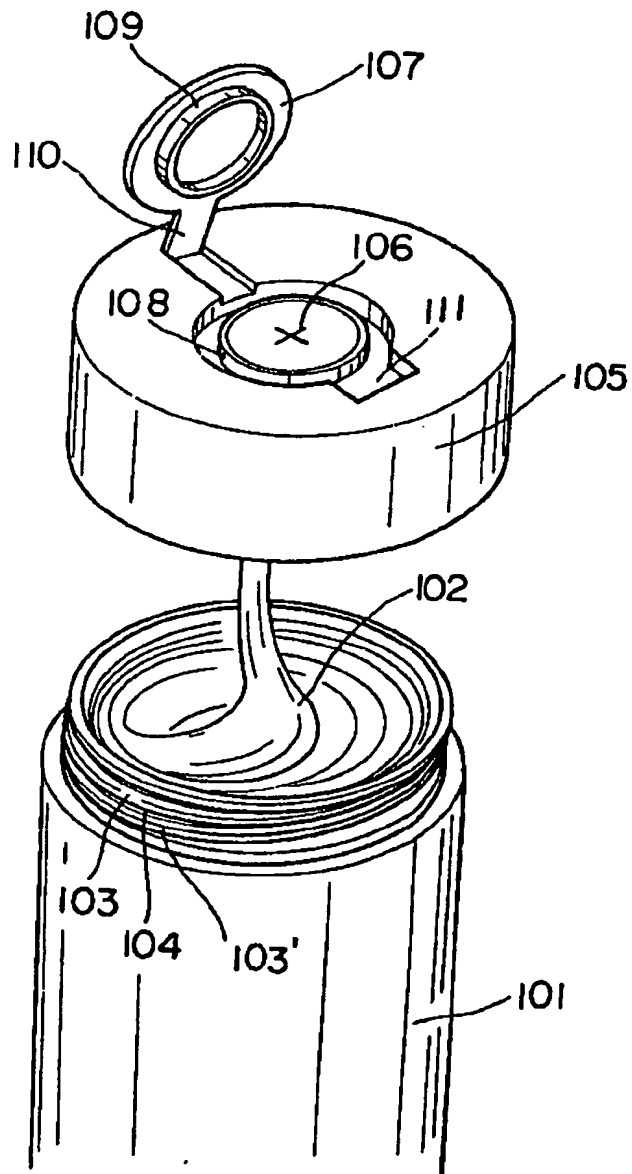


日願人 有限会社 本郷  
井 一 ほか2名

11

実開 63-1

第 5 図



領人 有限会社 本郷  
牛 一 ほか2名